ジュネーブ、モーリシャスおよびドバイとの比較

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

ジュネーブとインド

スイスとインドの関係は、直接投資よりもウェルスマネジメントによって形づくられてきました。長年にわたり、インドの居住者が保有するスイスの銀行口座は、未申告の資産をめぐるインドの議論の中心にあり、シンガポールはその議論において副次的な標的にすぎませんでした。スイスとインドが実施している情報の自動的交換の導入以降、この問題は鋭さの多くを失いました。ジュネーブ巻第E部は、スイス全般についてこの経緯を述べています。[1]その間に、経済関係は貿易と投資へと重心を移してきました。2024年3月10日にニューデリーで署名されたインドとEFTA諸国の間の貿易経済連携協定には、EFTA諸国が15年間で1,000億米ドルのインドへの投資を促進し、100万人の雇用創出を目指すという約束が含まれています。この協定は2025年10月1日に発効しました。[2]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

スイスとインドの租税条約も、シンガポールがよく知る難しさを示しています。2023年にインド最高裁判所が、インドの租税条約における最恵国待遇条項は別途の告示なしには適用されないと判示した後、スイスは2025年1月1日からインドとの条約における同条項の適用を停止しました。[3]したがって、ジュネーブとシンガポールは同じ相手と向き合っています。すなわち、外国資本を歓迎しながらも、条約について独自の解釈を譲らない、大規模で成長を続ける経済です。違いはその機能にあります。ジュネーブはインドの個人資産を運用し、インドのコモディティを離れた場所から取引しています。シンガポールは、インドに流入する資本の直接の経路上に位置しています。

モーリシャス

最も近い比較対象はモーリシャスです。モーリシャスはインドとの条約により、20年にわたってインドへのFDIで首位の地位を占めていましたが、2016年の議定書によって新規投資に対するキャピタルゲインの免除が廃止されました。シンガポールの条約は2005年から2017年までモーリシャスの条約と連動していたため、二つのセンターの命運は法によって結びつけられていました。その後シンガポールがモーリシャスを追い抜いたのは、条約以上のものを提供したからです。すなわち、厚みのある金融サービス部門、国際的な評価を持つ規制当局、大規模なインド人専門職コミュニティ、そしてインドを越えた地域市場です。ジュネーブ巻は、モーリシャスがアフリカへの投資において同様の役割を果たしていると指摘しました。シンガポールにとっての教訓は、条約上の優位性は一時的なものである一方、金融センターとしての資質は持続するということです。

ドバイ

ドバイとアブダビは、別の分野でインド関連の業務をめぐってシンガポールと競合しています。湾岸地域のインド人ディアスポラは大規模で、ムンバイからのフライトは短く、所得税がないことがインドの起業家や富裕な

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

一族を引きつけています。IFSCAは、MASとの覚書から数か月後の2020年12月に、アブダビ・グローバル・マーケットとも覚書を締結しました。ドバイの強みは、貿易、不動産、金、そしてインドの一族の個人的な移住にあります。シンガポールの強みは、機関投資家の資本、ファンド運用、そしてインドへの投資のストラクチャリングにあります。第K部第III章では、これらのセンターを詳しく比較します。

数字で見る

最初のインド・シンガポール租税条約：1981年4月20日。現行条約：1994年1月24日署名、1994年5月27日発効。議定書：2005年6月29日（2005年8月1日発効）、2011年6月24日（2011年9月1日発効）および2016年12月30日（2017年2月27日発効、キャピタルゲインに関する規定は2017年4月1日から）。特典制限の支出基準：年間20万シンガポールドルまたは500万ルピー。シンガポールにおけるMLI令の施行：2019年10月1日。CECA：2005年6月29日署名。2020年国勢調査におけるシンガポールのインド系住民：362,274人（9.0%）。2000年4月から2026年3月までのインドへの株式によるFDIの累計：7,877.2億米ドル、うちシンガポール24.72%、モーリシャス23.71%。2025–26年のシンガポールからの株式によるFDI：198億米ドル。2025–26年の二国間貿易：361億米ドル。テマセクのインドへのエクスポージャー：7%（2026年3月31日）。SGX Nifty：2000年9月25日開始、2023年7月3日にGIFT NiftyとしてGIFTシティへ移管。IFSCA：2020年4月27日設立、2020年6月17日にMASと覚書。2025年6月30日時点のGIFTシティのファンド：運用会社177、ファンド272、コミットメント221.1億米ドル。

注

1. Ressos, *Genève, place financière internationale*, partie E, chapitre III, « La fin du secret bancaire à l'égard des autorités fiscales étrangères (2008-2018) ». ↩
2. EFTA, "India"（efta.int、2026年11月最終閲覧）：TEPAは2024年3月10日に署名され、2025年10月1日から発効（2025年10月1日の共同声明）。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Wikipedia, “India–EFTA Trade and Economic Partnership Agreement”（2026年11月最終閲覧）：2024年3月10日にニューデリーで署名。EFTA諸国は15年間でインドに1,000億米ドルを投資することを約束し、約100万人の雇用創出を目指す。 ↩

3. Supreme Court of India, *Assessing Officer v Nestlé SA*、2023年10月19日判決。スイス・インド租税条約の議定書の最恵国待遇条項を2025年1月1日から停止することに関する2024年12月のスイス連邦財務省の通知。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com